

令和6年度 学校経営計画

1 学校教育目標

校訓である五稜の精神「真・徳・美・知・体」に則った調和のある豊かな人間性の育成を教育目標として掲げ、その達成のために、次の4点を基本方針とする。

- (1) 主体的に学びに向かう力を育成します。
- (2) 地域連携やボランティア活動を通じて、地域や社会に貢献できる人材を育成します。
- (3) 芸術・文化やスポーツに親しみ、心身ともに健康な生徒を育成します。
- (4) 国際交流や地域社会との交流を通じて、コミュニケーション能力を育成します。

2 学校の特色

本校は、今年度で創立97年を迎える、普通科と商業科からなる総合制の高校である。生徒の通学区域は、射水市が最も多く、次いで高岡市、その他の市となっている。生徒の気質は明るく、素直であり、学習活動、部活動、生徒会活動などの実践に真面目に取り組んでいる。また、本校は、オーストラリアのノーブルパーク校との姉妹校提携により、これまで20回の相互訪問を実施しており、国際交流推進のため、射水市とも積極的に連携を図っている。

平成25年度普通科入学生より、2年次から文系・英語系・理系の類型別選択制を導入した。普通科では、SDGs学習を通して地域の課題解決や地域の魅力発信を目指した探究活動に積極的に取り組んでいる。英語系では特色ある学習や行事をとおして、豊かな国際感覚と優れたコミュニケーション能力を兼ね備えた人材の育成を図っている。商業科においては、資格取得を推進するとともに、地域の実情や課題に対する解決策を考察し、地域社会の活性化に向けて主体的に行動する態度の育成に努めている。

3 学校の現状と課題

本校は「五稜の精神」に基づく人づくりを目指しており、教育活動全体をとおして、意欲をもって主体的に学び、生き生きと学校生活に取り組む生徒の育成に努めている。

学習面では、学習指導の充実や家庭での学習習慣の定着を重視している。教員の授業技術の向上を図ることにより、生徒の主体的な学習への取り組みを進め、理解を深める必要がある。

進路指導面では、面接を重視し、一人ひとりに応じた支援を行うことで、早期に具体的な進路目標を設定し、目標達成に向けた自主的な学びに結びつける必要がある。

生活面では、家庭と連携して、規範意識や時間厳守など基本的な生活習慣の定着を図ることによって、自己管理能力を身につけさせることが求められる。

また、生徒の主体性を育てる学校行事や部活動等を推進し、学校生活に意欲をもって積極的に取り組む生徒を育てる必要がある。

4 学校教育計画

項 目		目 標 ・ 方 針 及 び 計 画	
1	学習活動	目標	<p>○生徒の学習意欲を喚起する授業を研究し、主体的に学習に取り組む態度の育成を目指す。</p> <p>○普通科・商業科の特色を活かしながら、進路希望の多様化に対応した学習指導を行う。</p> <p>○社会の変化や国際化・情報化に対応するため、豊かな国際感覚と優れたコミュニケーション能力、情報処理能力を備えた人材を育成するとともに、個性を生かした教育の充実に努める。</p>
	重点1①②	計画	<p>○①<u>授業研究や生徒の学習への取組改善の達成度、授業への主体的取組度に関するアンケート分析をとおして、授業技術の向上を図り、効果的な学習指導や評価方法を研究する。</u></p> <p>○②<u>商業科においては主体的な学びをとおし、地域の人材や企業と連携する学習を展開する。</u></p> <p>○グループワーク、ディスカッション、ペアワーク等アクティブ・ラーニングの視点を取り入れたり、タブレットなどのICT機器を取り入れたりすることで、思考力・判断力・表現力を育てるための指導法、協働して学ぶ態度を育てる指導法を研究する。</p> <p>○観点別学習達成度目標を教員と生徒が共有して授業を中心とした学習活動を行うことで生徒の学習改善につなげ、PDCAサイクルを確立させる。</p> <p>○普通科英語系の課題研究型授業やオーストラリアの姉妹校のノーブルパークの生徒との直接交流、英語セミナーなど、各類型で特色ある取り組みを行う。</p> <p>○個別最適な学びや隙間時間の学習に適した今年度新しく導入したスタディサプリを各教科、進路指導部、学年と連携しながら生徒に効果的に使用させる方法研究する。</p> <p>○商業科では、資格取得を推進し、進路実現につなげる。</p>
2	学校生活	目標	<p>○生徒一人ひとりの人格を尊重しながら、規範意識の向上やマナーを遵守する態度を養い、社会に適応できる心豊かな生徒を育成する。</p> <p>○健康診断や教育相談をとおして生徒の心身の健康保持・増進を図るとともに、自主的健康管理能力を育成する。</p>
	重点2①②	計画	<p>○①<u>生徒指導方針について、生徒・保護者・教職員の共通理解を図ることで、生徒の規範意識の向上と基本的生活習慣の確立を目指す。</u></p> <p>○②<u>生徒会や自律委員会を中心に、通信機器の使用に関するルールを守るための話し合いを行うなどの取り組みにより、生徒の自覚ある行動を促す。</u></p> <p>○通信機器の使い方、あいさつ、交通ルールの遵守等に関して、生徒が主体となり取り組む。</p> <p>○交通安全指導や携帯電話・インターネットの利用等のマナー講習、薬物乱用防止に関する講習をとおして、危機管理意識を養う。</p> <p>○生活規範について統一ホームルームで話し合うなど、クラスや学年全体で考えることで、規範意識の醸成に努める。</p> <p>○保護者と連携しながら、保健指導の充実や生活習慣の改善に努める。</p> <p>○生徒委員会の自主的・積極的活動を推進し、健康と美化意識の向上と行動の習慣化を図る。</p>

3	進路支援 重点1①②	目標	○生徒が自らの在り方、生き方を考え、主体的に進路を選択することができるように、教育活動全体をとおして計画的、組織的な進路指導を行う。
		計画	○① <u>目的意識の涵養と将来の職業人としての自覚や責任感を高めるためのキャリアガイダンス（職業研究、学部学科研究、模擬授業）や進路講話などを充実させることで、進路意識の高揚を図る。</u> ○② <u>担任及び教科担当者が必要に応じて個別面接を実施し、一人一人の生徒に寄り添った進路選択・進路実現を支援する。</u> ○進路指導部を中心とした進路情報や課題等を共有する体制を確立し、個々の生徒の適性にかなった的確な情報を提供するとともに、徹底した個別指導を行い、目標達成を目指す。 ○スタディサプリを活用した学習を充実させ、主体的・意欲的に学習に取り組む体制を整えることで、個別最適の学習を推進する。。 ○インターンシップ事業のより効果的な推進を図る。
4	特別活動 重点2①②	目標	○ホームルーム活動、学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動などをとおして学校生活が一層充実したものになるよう働きかけるとともに、これらの活動が、生徒が自ら「学び」、自ら「鍛える」場となるよう工夫する。 ○学年や教科との連携により、図書館利用を促進し、生徒の読書量の増加を図る。委員会の自主的積極的活動を推進し、学校図書館への関心を高める。 ○台湾やオーストラリア姉妹校との交流活動等を通じ、豊かな国際感覚を養う。
		計画	○① <u>部活動に3年間継続して参加するよう、呼びかけるとともに、部活動において生徒が充実感を得られるような取り組みを展開する。</u> ○② <u>計画的なホームルーム活動や生徒の主体性を重視した生徒会活動・部活動を推進する。また、地域に貢献するボランティア活動などをとおして、生徒の社会性や協調性を育てる。</u> ○朝読書をとおして読書指導の充実を図る。また教養講座などの委員会活動をとおして生徒の主体性を育成し、読書意識の向上を目指す。 ○姉妹校等との交流学習や国際交流をとおして、生徒同士が互いの国の歴史や文化について、理解を深める。
5	その他	目標	○PTA・同窓会・学校評議員会との連携を密にして、本校教育活動に対する関心を高めるとともに、理解と協力を得る。
		計画	○PTA研修会、保護者懇談会、学校評議員会等をとおして情報提供を行うとともに、本校教育活動が一層充実するよう努める。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和6年度 新湊高等学校アクションプラン - 1 -			
重点項目	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の授業技術の向上と生徒の自ら学び考える力の育成 ・進路意識の高揚 		
重点課題	<p>生徒が目標に向けて学習計画を立て、授業を中心とした学習活動において計画を実行し、その結果に対して振り返りを行い、次の目標に向けて改善を図るという主体的な学習態度を身につけることができるように教師は授業改善に努める。また、個々の目標に応じた適切な進路指導を実践し、自己実現を目指す。</p>		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・本校では、これまでも互見授業期間を設定し、教員が相互に授業を公開し、意見交換を行っている。授業においては「主体的で対話的な深い学び」につながるようにグループワーク、ディスカッション、ペアワーク等を取り入れたり、思考力・判断力・表現力を育てるためにタブレットなどのICT機器を用いたりして授業改善に努めてきた。また、主体性を持って多様な人々と協働して学ぼうとする態度を育成することにも力を注いできた。 ・年間授業計画において観点別の学習の達成度目標を生徒に提示し、教師と生徒が目標を共有することで生徒の学習改善につなげられるようにしている。 ・具体的な進路目標を見つけ、目標に向けた主体的・計画的な学習に結びつける必要がある。また、困難な課題に直面したときに、安易な選択をしがちなので、より高い目標に自ら挑戦するよう進路意識を高める必要がある。 		
達成目標	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究の実施 1人1回以上の授業公開と2回以上の見学（他教科の授業を1回以上見学） ・生徒のPDCAサイクルの改善達成度 85%以上 生徒の授業への主体的取り組み度 90%以上 </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・1学年：志望する学部や職種が定まっている割合 85%（1月時点） ・2学年：具体的な志望校、業種がいくつか決まっている割合 85%（1月時点） ・3学年：進路決定者の割合 98%（3月末時点） ・生徒一人当たりの年間面接回数 1・2学年 4回以上 3学年 5回以上 </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究の実施 1人1回以上の授業公開と2回以上の見学（他教科の授業を1回以上見学） ・生徒のPDCAサイクルの改善達成度 85%以上 生徒の授業への主体的取り組み度 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年：志望する学部や職種が定まっている割合 85%（1月時点） ・2学年：具体的な志望校、業種がいくつか決まっている割合 85%（1月時点） ・3学年：進路決定者の割合 98%（3月末時点） ・生徒一人当たりの年間面接回数 1・2学年 4回以上 3学年 5回以上
<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究の実施 1人1回以上の授業公開と2回以上の見学（他教科の授業を1回以上見学） ・生徒のPDCAサイクルの改善達成度 85%以上 生徒の授業への主体的取り組み度 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年：志望する学部や職種が定まっている割合 85%（1月時点） ・2学年：具体的な志望校、業種がいくつか決まっている割合 85%（1月時点） ・3学年：進路決定者の割合 98%（3月末時点） ・生徒一人当たりの年間面接回数 1・2学年 4回以上 3学年 5回以上 		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を互いに参観する機会を設け、計2回以上参観する。様々な視点から指導方法を検討するため他教科の授業を1回以上参観する。 ・授業を検討する方法として授業参観メモを用いて授業者にフィードバックする。 ・学校訪問では各教科で授業検討会を実施し、そこでの意見や指導主事からの助言をその後の授業改善に役立てる。 ・授業研究における指導計画にアクティブ・ラーニングの視点に立った活動やICT機器の効果的利用をした授業を取り入れ、学習の効果を高めるようにする。 ・今年度から導入したスタディサプリを用いて生徒アンケートを実施する。その結果を分析し、教科部会等で評価方法や指導法を検討する。 ・進路指導部及び学年と連携し、考査、模試、検定試験、学びの基礎診断などを実施した後、個々の生徒や学年全体の結果分析を行い、学力向上に結びつく指導方法について検討する。 <ul style="list-style-type: none"> ・HRや総合的な探究の時間を利用して、進路学習や進学講話、進路ガイダンスを生徒の実態に合わせて効果的に実施する。 ・キャリアガイダンス（職業研究、学部学科研究、模擬授業）は、同窓会・PTA・地元企業や学校の協力のもと連携して行い、社会に貢献する姿勢と自己実現に向けての意識を高めるものとする。 ・進路意識の向上を支援する強化期間として面接週間を各学期初めに設定し、生徒一人ひとりの進路実現を支援する。 ・受験情報やオープンキャンパスなどの情報を随時発信し、具体的な行動を促す。 		

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した）

重点項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣の確立と通信機器使用におけるモラルの向上 ・ 生徒の主体的な活動と部活動の充実 	
重点課題	<p>基本的生活習慣の確立と携帯通信機器使用におけるモラルの向上を目指す。部活動の充実化を図るとともに、行事等への参加をとおして学校生活に主体的、積極的に取り組む態度を育成する。</p>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本校では遅刻指導に重点を置いて長年取り組んでいるが、遅刻件数は横ばい状態で、遅刻指導に苦慮している。遅刻を繰り返す生徒は心身不調や不登校と関連していることが多いと思われる。 ・ 校地内でスマートフォン等の使用を禁止しているが、各学年で年間 10 件以上の違反者が報告されており、その都度指導を行っている。また件数は少ないが SNS での誹謗中傷、肖像権侵害など数件報告を受けている。SNS の危険性や利用マナーについて認識が薄いと思われる。 ・ 生徒会行事に積極的に参加する生徒は多く、昨年、生徒会行事に「自主的かつ積極的に参加した」と答えた生徒は 95% であった。多くの行事で生徒たちの主体的な活動が見られた。 ・ 昨年度は部活動をとおして自分を成長させることができたと感じている生徒は 90% と多かった。また、3 年生の部活動継続率は 85% と前年より高くなった。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遅刻者の人数 各学年、1 日平均 0.5 人未満 ・ 通信機器に関するマナー違反件数 各学年、年間 5 件以内 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会行事に自主的かつ積極的に参加したと感ずることができる生徒の割合 92% 以上 ・ 奉仕活動や校外ボランティア活動を年 1 回以上実施した部の割合 50% 以上 ・ 各種大会やコンクールで受賞した件数 150 件以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒玄関で登校指導を行う。 ・ 遅刻を繰り返す生徒にはその原因を明らかにさせ改善策を考えさせる。 ・ 保健厚生部や担任との連携、保護者には家庭指導票を活用して協力をお願いする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会のテーマに沿った企画を委員会や学年、学級、部活動等に立案させる。 ・ 各種行事における個や集団の役割を理解させ、主体性や積極性を高める。 ・ 生徒会執行部がボランティア活動を推進するとともに、各部活動でもボランティア活動を計画したり実施したりして部活動との関わりを深めることで、部活動の充実度や継続率を高める。 ・ 生徒会費や特別活動等助成費を有効に活用して環境整備を充実させて、生徒の積極性や技能向上、活動の効率化を図る。

(評価基準 A : 達成した B : ほぼ達成した C : 現状のまま D : 後退した)